

【建通新聞】

＜2015年 5月22日（金）掲載＞

総 会

●構造調査コンサルティング協会



構造調査コンサルティング協会は19日、都内で第14期の通常総会を開いた。協会認定資格制度「建築構造調査士」の推進、会員の増強、構造物評定業務の強化などを柱とする事業計画を決めた。

任期満了による役員改選で新会長に就任した秋山友昭氏＝写真＝は「公共建築物とは対照的に民間建築物の耐震への動きは鈍い。今後は耐震診断とともに建物を長く、良い状態で保つことによる

良質なストックの確保に向けた社会貢献が重要。会員の増強や天井耐震、構造調査士資格の推進などを進めるとともに、耐震診断、耐震補強の必要性を広く訴え、会の運営に尽力したい」と話した。

赤木久真前会長は「東日本大震災が発生し、建築物の耐震に関する要望は幅広くなっている。どんな要請にも答えられる集団に進化できるように、今後も協会の運営を支援していきたい」と話した。

2015年度は、建築構造調査士の普及、耐震診断技術など各種講習会の開催、受託業務の拡大活動などを進めていく。

